海外派遣留学プログラム報告書

（報告期間：2019/08/26　～2019/10/04　）

１．勉学の状況

派遣先の国立研究大学高等経済学院には学部の授業と留学生のためのロシア語の授業があり、現在のモジュール１では、学部の授業の中から英語により開講されているものを３つ（＋１つ聴講）とロシア語の授業を１つ（週２回）とっている。学部の授業については、ロシアの海外政策、韓国の経済成長、ジャーナリズムとメディアについての授業を受講し、加えて東アジアについての授業を聴講している。韓国の経済成長の授業はオンラインで開講されている。これらの授業はすべて英語で開講されており、ロシアではあるが質の高い英語での授業が受けられることにとても驚いた。ヨーロッパからの留学生が多いため、ほとんどの留学生が英語を流暢に話すのだが、英語で開講されている授業を受講する現地の大学生の英語レベルも非常に高い印象を受けた。そのため私にとっては英語も悩みの種の一つである。ロシア語を日本で２年間半ほど勉強してきたが、ロシア語で開講される授業を受講するにはネイティブレベルの語学力が必須となりほぼ不可能だ。だが、この大学はロシア語が話せなくても英語で学べる環境が整っているため、ロシア語学習者以外の方にもお勧めしたい。さて、授業内容についてだが、まず教授の話を理解しノートをとるということが難しい。聞くことに励むか、スライドを書き写すことに励むかという余裕しかないものもある。スマートフォンで録音をすることも試したが、次回までにすべてを解読することが難しく、また録音に頼って授業に身が入らないこともある。しかし、そんな授業では友達がノートを見せてくれたりして助けてくれるのでとても有り難い。日本人が話す英語があるように、様々な国の英語があることを留学で身をもって感じている。ロシア語だけではなく英語も成長しなければならない状況だ。

ロシア語の授業については、単語の説明や文法用語でたまに英語が使われることもあるが、ほぼロシア語で行われている。日本人以外のロシア語学習者とともにロシア語を勉強して、ロシア語を声に出して勉強することが大切だと思った。また単語量の少なさを痛感したので、読書や日常の中で目に入るロシア語を覚えて少しずつ増やしていきたい。そして外国語を話すうえで一番大切なことは怖がらずにはっきりと話すことだと思う。留学をして１か月がたったのだが、今のところ語学において著しい成長は見られない。英語もロシア語も耳は慣れてきたが、単語を認識し理解するまではいかないのが現状だ。まだ複数の言語を切り替えながら生活することに慣れない。スーパーやレストランなど、大学を出ればそこはロシア語だけの世界が広がっているため、ロシア語ができなければロシアを理解することは難しいといえる。まだロシアについてわからないことがたくさんあるので、ロシア語をもっと勉強してロシアをさらに近く感じられるように頑張りたい。

２．生活の状況

ロシアに来て1週間はまだ夏の気配が残っていたのだが、少し経つとすぐに空気が冷たくなり、9月中旬からはコートを着ないと風邪をひく気温になった。また、曇りの日が多い。日本にいたときは散歩というものを一つの移動手段としてとらえていた。だが、ここにきて青空が少ない曇りの日が続くと、日が差していて青空が見える時間というものがどれほど貴重で、心の安らぎにつながるものなのかを実感するようになった。そのため、私も天気がいい日には外に出て少し散歩をし、公園や池のほとりで何も考えずにゆっくりとする時間が好きだ。そういえば、最近セントラルヒーターが始まった。地下鉄の駅はいつでも暑いのだが、寮が暖かくなって過ごしやすい。セントラルヒーターの準備のために水道とお湯が使えない日もあったが、1日だけだったので特に困ることはなく終わった。

モスクワは都会だ。地下鉄もバスも、交通面で困ることはほとんどない。ただ、駅はバリアフリーが進んでおらずエレベーターなどはほとんどない。また駅が地下深くにあり、驚くほど長いエスカレーターは2分以上乗ることになるのでモスクワ人の中には座って休む人も見られる。日本と同じように右側に立って乗り、左側は急ぐ人が歩けるようにあけておくことが多い。ただ、距離が長くスピードもあるため、2 列で止まって乗るようにというポスターも貼ってあったが、急に変えることは難しそうだ。駅にエレベーターがないと話したが、階段も多い。そのため、初日は20キロ近いスーツケースを2つ運ぶことが本当に大変で、階段の前で持ち上げる準備をしていると見知らぬロシア人が何十回も助けてくれた。ロシア人の優しさに本当に泣きそうになってしまった。日本では感じられない、他人との距離感がある。というのも、ロシア人は他人に対して微笑むことは少ないが、私のように困っている人がいたら無条件に手を差し伸べ、前を歩く人がドアを開けて待ってくれることもある。また、お店やチケットカウンターで微笑んでくれるロシア人もいるので、そこまでカルチャーショックを受けることはなかった。ただロシア語が乏しいため、相手の話すことが理解できない上手く伝えられないことので、もどかしくなることが多い。

ご飯は、朝食はパンやシリアルを、昼食は授業がある日には学食を利用することが多い。学食に200円ほどのランチがあるため、それをよく食べている。夕食は外食や学食を利用することもあるが、寮でパスタやスープを作って食べることが多かった。同じ寮に住む留学生も自炊をする人が多い印象を受ける。

寮はとてもきれいだ。窓を開けているとハエが入ってくることもあるが、ゴキブリはまだ見たことがないし、清潔だと思う。ただ、私が住んでいる部屋はいくつかある寮のなかでもきれいで広い部屋なので運がよかった。私は日本人と中国人とともに3人で暮らしていて、机のある部屋と寝室があり、専用の冷蔵庫・トイレ・シャワーが備わっている。だが、ここでの一般的な部屋割りは、一つの部屋に机とベッドが2つずつで、2人でシェアする人が多いようだ。また2段ベッドの部屋もあるようで寮の状況はそれぞれ違うみたいだ。

モスクワには日本人と日本語を学ぶロシア人との交流会もあるので、これから積極的に参加していきたい。ロシア語の向上のためには、ロシア人の友達をつくって、ロシア語を話さなければならない状況に飛び込む必要性を感じる。これはロシア語の授業で先生が話していた話なのだが、

今は皆スマートフォンを持っているので、場所がわからなければ人に道を聞かなければならなかったり、翻訳サイトを使うことができなかった時と違って、他人に話しかける必需性が減っている。またネットを見ている時間が多く、コミュニケーションをとる時間が少ない。その中で自分のできる範囲で人と話す時間を増やしていきたい。ロシアにいても日本での生活ができてしまうのだが、今ロシアでしかできないことを選択して、残りの留学生活を充実させられるように頑張り楽しみたい。

海外派遣留学プログラム報告書

（報告期間：2019/10/05～2019/12/28　）

１．勉学の状況

１セメスターの２モジュール目が終わった。ロシア語の学習もセメスター完結なので、ひと段落だ。成績を確認すると、無事単位も獲得できていたので良かった。今回の報告書の期間中はロシア語の学習のみであったので、テスト期間中も忙しいことはなかった。ロシア語の授業では、先生が歌や詩が好きなこともあり、ロシアで大衆性のあるものを学ぶ機会があって楽しかった。自分の学力よりも少し上のクラスをとっていたのだが、エッセイの提出や自分の意見を述べなければならないときは正直難しくて、うまくできなかった。クラスメイトや先生の話すロシア語を聞いて、格変化やよく使われる単語は以前よりも身についたが、私の課題は単語量だ。やはり、単語を知っていれば意味も何となく理解できるし、意思の疎通もできる。ということで、残りの留学期間中は単語量を増やして、ロシア語で話せることを増やしていきたい。

千葉大で自分が所属する学科の３年次の課題である３年次論文については、まだあまり進められていない。日本でやらなければならないことと、ロシアでできることの両立が難しい。新年という節目もちょうどいいので、計画的に進められるように気持ちを切り替えて頑張りたい。

２．生活の状況

勉学の状況と生活の状況の文章量に差が出てしまい申し訳ないのだが、今回は勉強よりも友達と遊んだり旅行に行くほうが多かった。というのも、ほとんどの学生は１セメスターだけの留学なので、12 月で帰国する友達が多いのだ。ロシア定番の美術館はもちろん、モスクワで人気のあるグルジア料理を食べたり、仲のいいアジア人の友達と自分の国の料理を作って食べあったり。こう見ると食べてばかりなのだが、ロシア料理はレパートリーが少なくて飽きてしまうため、友達と会うと中華料理やグルジア料理などの食事は欠かせないのだ。これはグルジア料理の“ハチャプリ”というパンの食べ物で、いくつか種類があるのだが私はこのタイプのものが一番好きだ。日本ではなかなか見かけないグルジア料理、ぜひ見かけたら食べてみてほしい。

モスクワにいて良いことを挙げるとすれば、モスクワは大都会であるということだろうか。新海誠監督の“天気の子”はロシアでも公開され、ロシア初公開ということでいらっしゃった新海誠監督のインタビューも聞くことができた。よく笑う印象はないロシア人がこんなにも笑っているのを見ることができたのはこの映画のおかげだ。ラグビーワールドカップでの日本チームの熱戦はスポーツバーで観戦した。国際化は時に文化がまじりあって個性が無くなってしまうこともあるが、このように昔は考えられなかったことが可能になる。日本から遠く離れたモスクワでも日本と同じようなことができるのは凄いことだ。

12 月はイタリアのミラノ・トリノ旅行と欧州 4 か国旅行に行ってきた。イタリア旅行は、モスクワで行われたフィギュアスケートグランプリシリーズのロステレコム杯を観戦して感化され、急遽決めた旅行であったが、良い席を買ったこともあり選手の表情まで肉眼で見ることもできたため大満足だった。またミラノにあるレオナルドダヴィンチの“最後の晩餐”を鑑賞する機会にも恵まれた。イタリアの素敵な雰囲気と美味しい食事は最高だった。

クリスマスマーケットを訪れたくて計画した欧州 4 か国（チェコ・オーストリア・スロバキア・ハンガリー）旅行では、目的のプラハにあるクリスマスマーケットに行くことができた。またオーストリアのウィーンではあの有名なカフェ・ザッハーのザッハトルテをいただき、オペラ座でバレエ鑑賞もした。ただ12 月 24 日から 26 日はクリスマス休暇を取るお店が多く、24 日に訪れたスロバキアの首都ブラチスラバは観光客しかいない閑散とした様子で、ハンガリーの首都ブダペストも大きな町ではあるが普段よりも静かなようであった。クリスマスマーケットは素敵だが、クリスマス当日に旅行するのは、特に小さな町だとお勧めできない。

ロシア正教ではユリウス暦という古い暦を使っているため、ロシアのクリスマスは1月7日だ。だからなのか、東欧旅行中はロシア人観光客に遭遇することがとても多かった。クリスマスよりも新年を祝うことが重要視されるというロシアでは、新年のためのヨールカ（私たちから見るとクリスマスツリーの形）がモスクワじゅうに飾られている。こちらは赤の広場近くの写真だが、

ほかの留学生たちもびっくりするくらいモスクワのイルミネーションはキラキラと輝いていて綺麗だ。クリスマス、年末年始のシーズンには多くの劇場で“くるみ割り人形”の公演が行われる。私もバレエの公演を赤の広場近くのクレムリンの中にある劇場で鑑賞してきた。

モスクワ旅行、モスクワ留学は人気のあるものではないかもしれないが、やはり冬のロシアは魅力的である。しかもこれからぜひモスクワを訪れるなら冬に！夜のイルミネーションはとても綺麗で、夏には観ることのできないバレエなどの芸術鑑賞もできる。そして広大な土地のあるロシアだからこそできる、屋外にある巨大なスケートリンク。ロシア人はほとんどの人がスイスイと上手に滑るので感心してしまう。1月から学生が無料で滑ることのできる機会もあるので２０２０年の冬はスケートを極めようと思う。ちなみに今年 2019 年の冬は異例の暖かさで、日本のお隣にある韓国のほうが気温は低い。もちろん雪もなかなか降らないのでまだロシアの冬は体験できていないのだが、これから後 3 か月間が楽しみである。

海外派遣留学プログラム報告書

（報告期間：2019/12/29　～2020/03/31　）

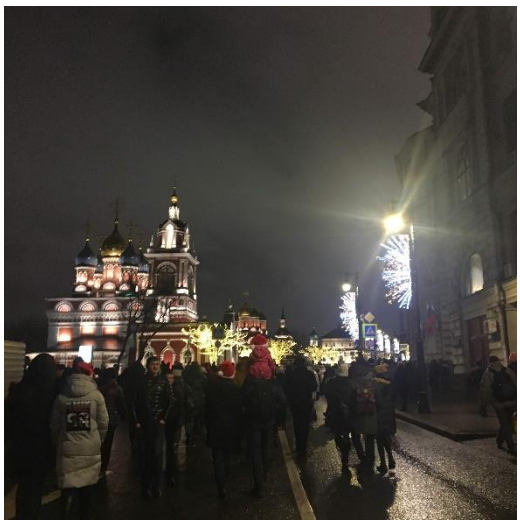
１．勉学の状況

１月前半は授業もなく、暇な時間が長かった。３月になってからはリモートでの授業となっていたので、寮の自室で授業を受けるようになった。リモートでの授業は予想していたよりも便利であった。特に発言や説明がイヤフォンを通して直接耳に入るので、外国語でも聞きやすかった。しかし、同じ部屋でルームメイト３人がそれぞれ授業を受けるので、そこが不便であった。

私の留学期間は後期の半分となっているので、同じ種類の授業を２つ取り、それを合わせて一学期分の単位として取得した。特にロシア語を学ぶ授業では、前期とは異なり、すべてロシア語で学ぶものを取っていたので、ロシア語を使って自分の言葉で伝えることを練習することができた。

２．生活の状況

年越しは赤の広場で迎えた。モスクワ市内は赤の広場で年越しを迎えるのだろうか、と感じるほどにすごい数の人で、この日だけは地下鉄の料金が無料で、新年が明けてからの深夜でも地下鉄が動いているという特別な日だった。普段のイメージとは違い、新年を喜んで明るく迎えるロシアの人々の姿が微笑ましかった。



１月 19 日は「主の洗礼祭」というロシア正教の祭日で、人々は教会に聖水を汲みに行く。また、凍った湖に穴をあけて、頭まで水に浸かり、体を清めるという伝統がある。今年は暖冬で、例年よりも暖かいのかもしれないが、この日は雪もちらつくほどに寒かった。その中で冷たい水に入っていく人々の姿は衝撃であった。

2 月 23 日は祖国防衛の日（Ｄｅｎｂ　Ｚａｃｈｉｔｎｉｋａ　Ｏｔｅｃｈｅｓｔｖａ）で、今では「男性の日」となっている。この日は、1918 年にソ連の赤軍がドイツ軍との戦いに勝利したことから、祖国を守るために戦った軍人を称える日になったと言われている。この日には様々な場所でイベントが行われ、空砲や花火を見ることができる。聞いたことのない爆音と、日本ではありえないほど近くで上がる花火は迫力満点であった。

2 月下旬から 1 週間、春を迎えるお祭りである「マースレニッツァ」がある。様々な場所でイベントが行われているのだが、赤の広場近くはこのような感じである（下の写真）。

この日には、太陽を象徴する「ブリヌイ」という食べ物を食べる。このブリヌイはクレープの生地で具材をまいたものが多い。中身は甘いものから、イクラや煮込んだひき肉、ホワイトソースで煮込んだキノコなど様々なものがある。ブリヌイ自体は日常的に食べられるものではあるが、この日は特別な食べ物であり、私もこの期間には毎日様々な場所で何個も食べた。

1 月から中国を中心にアジアで広まっていると考えられていた新型コロナウイルスであったので、早い段階で中国からの渡航の制限が行われていた。世界で広がっていくにつれて、2 月には日常生活でもピリピリとしていたように感じる。その時期にヨーロッパから留学をしに来た学生もいたので、その面で留学生もピリピリとしていたこともあった。マスクをしない文化であっても、マスクをしている人を見かけるようになっていった。また大学や寮での入り口で検温が行われるようになった。3 月になってリモート授業に切り替わり、特定の国からロシアへ入国した場合には、寮で 2 週間の自主隔離が求められるようになった。中国人の入国が制限されていたので、街中でパスポートの提示を求められることもあった。

私は 3 月中旬になって、新型コロナウイルスの影響による制限によって帰国ができないこと

を危惧し、フライトを 1 週間早めることを決断した。私が帰国したあたりで日本行きのフライトが制限されることになり、大使館から帰国の連絡も来ていたので、早い決断ができて良かったと思う。このような世界規模での緊急事態のなかで留学をすることは中々ない経験だと思う。だが、このような緊急事態はいつ起こるかわからないので、そういった場合には現地のニュースや国の対応状況をみながら、予測を立てて早めに対応することが大切だと学んだ。